

私たちの町の文化財

速報！上代遺跡

■第3話 井戸と木と壺と私

現在上代で実施している発掘調査の速報をお届けしております。この正式名称「上代町遺跡群」から多くの木の道具が見つかったことは第1話でお知らせしていたと思います。しかし、木の道具以外にも、面白いものが見つかったんです。それは井戸です。直径が約1m、深さが1.2m程の大きさと、調査の間も常に水が湧き出ていました。機械が無い時代ですので、人の手だけで硬い地面を掘ったのでしょうが、調査を行っている所は掘れば水が湧いてくる低い土地ですので、当時の人たちもあまり苦勞せずに水を確保することができたと思います。上代町遺跡群では、あわせて7基の井戸が見つかっていて、およそ1600年前の人達が使っていたと思われる。井の中の…といえば蛙ですが、この井戸の中からは完全な形の土器や、木の道具の破片が多くでてきました。

木の道具は全てが壊れているという状況でしたので、使えなくなった道具を井戸に捨てたのでしょう。そして、底にわざと穴が空けられている壺もでてきました。これでは中にもものを入れることができません。当時の人たちにとってのお祭りだったのでしょうか？本来はモノをいれるための容器なのに、わざと使えなくするという行為に当時の人々の精神的な部分が表れているといえますね。

熊本市文化振興課 芥川太郎氏

硬い地面に掘られた井戸



底の割れた壺



紀元四百年代、いわゆる倭国という国のカタチが出来た頃かな…

